

オールジャパンで「スポーツの力」を世界に届ける。
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催国として、
日本は政府、企業、競技団体、教育機関、NGO、自治体の力を結集し、
「スポーツの力」を世界の人々に届けていきます。
全ての人々がスポーツの力を感じ、体現する機会、環境を創る。
そしてスポーツのインテグリティを守り、健全なスポーツの普及に貢献する。
2020年へ。そしてその先へ。ひとつひとつの積み重ねが、
世界を変える大きな一歩になる。
私たちはオールジャパンの力を結集して、
スポーツの力でよりよい未来を創ります。

NEWSLETTER Vol.5
www.sport4tomorrow.jp/jp/

SPORT FOR TOMORROW



特集：特別対談

インクルーシブ社会実現に向けたSFTの活用

木村徹也氏、河合純一氏

P.2

「第2回 SFTコンソーシアム会員交流会」開催報告

P.4

ファクトシート：会員数増加とアクティブ会員率アップにより活動実績大幅向上

P.5

スポーツを通じた国際貢献・交流を行うためのスキーム紹介

P.5

SPORT FOR TOMORROW 新規会員

P.6

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局からのお知らせ・お願い

P.6

特集：特別対談

インクルーシブ社会実現に向けた SFTの活用

「インクルーシブ社会」とは、

今回のテーマ「インクルーシブな社会」(共生社会)という言葉に対してどのようなイメージをお持ちですか？

河合 「ダイバーシティ」と近い意味があると考えています。「障害のある方」と「障害のない方」、「男性」と「女性」、国籍や年齢の違いなども含めて、**それぞれの持っている良さを活かした、混ざり合った社会**かと思います。

木村 スポーツ庁では「スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sport, Enjoy Life」というスローガンを掲げ、スポーツの喜びを中心に、スポーツの力で社会を変えていくことを目指しています。「インクルーシブな社会」(共生社会)というものは、子どもからお年寄りまで、男性・女性、健常者・障がい者など**全ての人**がスポーツや運動を通じて社会に積極的に参加し、健康で生き生きとした人生を送ることができる社会と考えており、スポーツ庁としても様々な取組みを行っています。

インクルーシブな社会を実現していくことの「意義」についてはどのようにお考えですか？

河合 混ざり合うことで、一時的には「抵抗」など様々な化学反応が起こるはずですが、その化学反応こそが社会における「イノベーション」だと思います。つまり、「インクルーシブ」は「イノベーション」と密接な関係があると思っています。

超高齢化社会など、日本が諸外国よりも先に体験せざるを得なくなっている様々な社会課題があります。それらの課題を解決するモデルの一つにインクルーシブな社会があると思っています。一部の障がい者に対する政策や制度ではなくて、すべての人たちにとって必要な政策や制度を、このTokyo 2020をきっかけに作り出す必要があると思っています。

スポーツが変える！「インクルーシブな社会」の実現へ

インクルーシブな社会を実現するため、まず何から取り組んでいくべきだとお考えですか？

河合 スポーツ界からインクルーシブな社会を実現していきたいと強く思っています。ハード面でのバリアフリーが100%日本中で実現できたとしても、根本的解決にはなりません。点字ブロックの上に自転車を置いたり、そこで立ち話をしている人がいては、全く意味がありません。むしろ点字ブロックがなくても、悩んでいる障がい者の方がいたら、お手伝いしましょうかと声をかける人が増えるほうが、コミュニケーションや新しいつながりも生まれ、有意義ですよ。スポーツ界にいる方こそ、フェアネス(公平性)、ジャスティス(正当性)、あるいはインテグリティ(高潔性)が問われているんだということに気づくことが大切なのかなと思っています。

スポーツ庁は、第2期スポーツ基本計画の中間報告で「スポーツの価値を共有し人々の意識が変わることで、社会の発展に寄与できる」と掲げられましたが、具体的な取組みについて教えてください。

木村 まず国内でインクルーシブな社会の実現にむけてスポーツを最大限活用していくことが大切です。例えば、健常者の週一回以上のスポーツの実施率が40%なのに対して、障がい者の方は20%に満たないことや、20代～40

対談者：木村徹也 (SFTG運営委員会議長・スポーツ庁審議官)

河合純一 (パラリンピアンズ協会会長・日本スポーツ振興センター)

聞き手：阿部篤志 (日本スポーツ振興センター)

日時：2017年2月9日(木) 9:30～10:30



代の女性のスポーツ実施率が低いというような実態があります。

第2期スポーツ基本計画では障がい者の方々への週一回以上のスポーツ実施率40%などの目標を提示しているため、まずスポーツを通じた社会参加から取り組んでいきたいと思っています。

その上で、**スポーツを通じて世界とつながり、多様性を尊重する社会を目指す**ことが基本計画の目標です。トップスポーツではパラスポーツの普及や選手の参加支援、草の根では健常者と障がい者の方々と一緒に参加できる、「共生型スポーツ」の普及や「障がい者スポーツ」の指導者研修などに力を入れていきたいと考えています。このように**トップと草の根の施策、国内と国際的な施策を連携させて好循環が生まれれば、共生社会に一歩近づく**のではないかと考えています。

河合さんはご自身で様々な国に足を運ばれていますが(※1)、インクルーシブなスポーツ環境をつくる為には、どうすべきであると考えますか？

河合 インクルーシブな教育が、実は途上国等ではネガティブに捉えられるケースがあります。特別支援学校を用意し、先生を雇い、そこに障がい者が通うとお金がかかります。それよりも障がいのある子もいない子も同じ学校に通った方がよいという考え方です。ある意味、インクルーシブな教育ですよ。日本は良い学校があるがために人々が混ざり合わなくなっているという「課題」もあります。一緒にプレーをしたり、隣でプレーする姿を見られる機会を持つなどして、**スポーツを通じて「混ざり合うチャンス」を増やしていければ**と思います。

まだまだ残念ながら、障がい者や、車いすではスポーツ施設が利用できない、さらには入会を断られるケースがあります。これらをまずゼロにすることを、目指すべきかと思っています。途上国では「体を動かすこと」ですごく生き生きとし、自分たちの努力や工夫が、記録や結果に表れてくる。また人と人が繋がる「喜び」を感じられているとすごく感じます。SFTの一環で中国で日本語を勉強する大学生に講演する機会をいただきました。他の国の日本に興味を



※1:「日中交流集中月間(2016年10月～11月)」の取り組みの一貫で、独立行政法人日本スポーツ振興センターが華中師範大学などで河合氏による講演を実施。

持つ方にも日本のスポーツの魅力を伝えるプログラムを通じて、日本の良さを広めていくことが出来ると思っています。

木村 河合さんが仰ったように、簡単な遊びでもいいので、皆で一緒にできるものを広げていくことが大切だと思います。SFTコンソーシアム会員の皆さんの中には、レクリエーションも含めて、色々なノウハウを提供できる団体がいっぱいあるのでとても期待しています。先日は日本で生まれた「卓球バレー」や「風船バレー」という誰でも参加できる「共生型スポーツ」の指導者研修を中南米で行いました(※2)。また福祉の先進国地域である北欧で、障がい者武道講習会を行う取り組みも、実施しています。こういう具体的な事業を通じて、日本のノウハウを活かし、インクルーシブなスポーツの考え方が少しでも理解されるようになっていけばと思います。



※2:日本スポーツ振興センターからの委託を受け、ふうせん遊び協会と日本卓球バレー連盟がブラジル・パラグアイ・アルゼンチンにて日本発祥の共生型スポーツ「卓球バレー」「風船バレー」の指導者講習会を実施しました。

SFTコンソーシアムで築くパートナーシップ

SFTコンソーシアムの連携がさらに生きるアイデアがありましたら、ぜひお聞かせください。

河合 これはSFTコンソーシアムの場に限りませんが、情報は降ってくるものではなく、自ら取りに行くものだと思います。そうした情報ほど生きてくる、使える情報になります。交流会で他の団体と出会い、得られる情報によって、新たなアイデアが生まれることもあると思います。まさに先ほど言った通り、混ざり合うことが重要でしょうし、今まで出会うことがなかったような競技団体やNPO/NGOなど、色々な団体と関わり、刺激をもらうことがイノベーションにもつながると思います。そういう出会いの場がコンソーシアムだと思うので、ぜひ積極的に関わり、そこからまたヒントを得ていただき、お互いを良い意味で活用する、そういうことが一番重要かと思っています。

木村 河合さんがおっしゃるように、SFTコンソーシアムの特徴の一つとしては官民一体でコンソーシアムを形成することで様々なノウハウやコンテンツを活用できることがあると思います。それに加えて、これは日本の援助の特徴でもあります、各国の自主性を尊重し、パートナーとして寄り添いながら支援する(※3)(※4)。さらに中長期的な視点に立って教育や人材育成を大切に



※3:日本スポーツ振興センターとAgitos財団(国際パラリンピック委員会)が日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンターの協力を得て、アジア9ヶ国からパラリンピック委員会関係者を招いて実施したマネージメント研修。

※4:SFTC会員である「難民を助ける会(AAR Japan)」が指導者の派遣や用具の支援を通してラオスにおける車椅子バスケットボール普及活動を行っている。

いることもSFTの特徴だと思います。国内外の組織とパートナーシップを組みながら、事業を実施していくことが大切だと思います。

メッセージ“1人1人が情熱を持って、日本ならではの支援を！”

最後になりますが、SFTC会員団体に向けてのメッセージをお願いします。

木村 昨年、我が国が主催したスポーツ大臣会合では、スポーツで世界の諸課題に対処する「開発と平和のためのスポーツ」についても議論しました。少し大げさかもしれませんが、スポーツを通じて世界を変えていくという意識を持って、取り組んでいければと思います。会員間の協力については、一昨年は38案件であったマッチング案件が、昨年の12月の段階で55件に増加しています。内容もスポーツを通じて国際的な諸課題の解決に貢献できるような質の高い事業が増えていると感じます。キーワードは「連携」です。ぜひ、さらなる会員間の協力、会員の拡大、事業の拡大に向けてご協力いただければと思います。

河合 会員団体の皆さんには、まず「自分たちの団体がインクルーシブな社会の縮図になっているのだろうか?」、あるいは「自分自身がそういう心になっているのだろうか?」を問い直していただきたいなと思います。「心が動くと人が動いて、人が動くことで世界が動いていく」。やっぱり個人が変わらない限り、社会や地域、国や世界を大きく変えることには絶対に繋がらないと思っています。

これから2020年に向けて、障がい者にスポットライトがあたります。ただ、これは同時に陰を作ってしまう。パラリンピックに選ばれていない競技や選手には目が向きにくくなるという課題も、同時に生み出している可能性があります。

今一番重要なのは、人の熱い思い、「熱(ねつ)」だと思うんですね。知識、スキル、リスクマネジメントなども必要です。でもやはり、言葉を超えて人から人に伝わっていくものはパッション(情熱)だと思うので、1人1人が情熱をもって活動を続けてほしいなと思います。



河合純一

競泳選手としてパラリンピック6大会連続出場。合計メダル獲得数は日本人最多の21個。元公立中学校教師。現在は日本スポーツ振興センターで勤務する傍ら、日本パラリンピアンズ協会会長、日本身体障がい者水泳連盟会長、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アスリート委員会副委員長を務める。2016年には日本人初のパラリンピック殿堂入り。

木村徹也

昭和61年外務省入省。インドネシア、ドイツ、在ニューヨーク国連代表部など、多くの在外公館で外交官の経験を有し、本省でも総合外交政策局人権人道課長などの要職を歴任。平成27年10月、スポーツ庁の立ち上げとともに、スポーツ庁審議官に就任。スポーツ庁では幅広い視野と経験をもとに、オリンピック・パラリンピックからスポーツ国際戦略、健康スポーツ、障がい者スポーツまで様々な政策を担当。

「第2回 SFTコンソーシアム会員交流会」開催報告

コンソーシアムの活性化に向けて事務局では、スポーツを通じた国際貢献・交流活動に関する情報交換を行う場として、2016年12月5日にTKP赤坂駅カンファレンスセンターにて「第2回SFTC会員交流会」を開催いたしました。

当日は、会員団体74団体・約180名にご参加いただきました。交流会では、20団体によるブースプレゼンテーションを行い、参加者の方々が興味のあるブースのプレゼンテーションを熱心に聞きながら、今後の国際貢献・交流活動の参考となる情報を収集していました。会場内の至る所で、活発な名刺交換などの交流も見受けられました。また、スポーツ庁・木村審議官のプレゼンテーションでは、SFTの活動実績を通じた様々な社会的価値やSFTC会員への要望などを説明いただきました。交流会の終わりには、外務省・三上人物交流室長からSFTムーブメントの重要性や今後への期待についてお話いただき、つつがなく閉会いたしました。

SFTC事務局では今回の交流会のフォローとして、ブースプレゼンテーションを行った団体を中心に会員団体間のマッチングを行い、幾つかの認定事業が既に実現しております。今後も、このような機会を設けていきたいと思っております。会員団体の皆様のご参加と積極的な連携を期待しております。



ブースプレゼンテーション実施団体からの感想

- 私たち単独で活動を行うのではなく数多くの企業や団体と協力することにより活動の幅を広げていける手応えを得ることができました。
- 今回SFTで私たちの活動に賛同し、協力していただけるパートナーを見つけることができないかと思い参加しました。今回いろいろな企業の方とお話することができ良い機会になりました。
- スポーツ支援を行なっていく中で同じような活動をしている団体がたくさんいることを知ることができました。緊張しましたが、皆さんに頷いて聞いていただき参加して良かったです。
- 沢山の方に自分たちの活動を知っていただく機会ができたことが嬉しいです。

参加者からの感想

- 初めて参加しましたが、情熱のある人がこんなに沢山参加しているとは予想していなかったので、非常に素晴らしい会だと感じました。
- いろいろな企業や団体が取り組まれていることを知ることができ、とても勉強になり、私も明日から頑張ろうという気持ちになりました。
- 自分たちだけで活動を行うということにまだ至っておらずいろいろな方との交流・出会いに期待して参加し、たくさんの刺激をいただきました。
- 他の団体がいろいろな国々と交流していることを知り多くのヒントを得られました。また活動を支援する団体の方も沢山いたので私たちにとってはうれしい情報ばかりで最高の時間でした。
- 海外にスポーツ用品などを寄贈する団体や自分たちと近い領域の活動をしている方も多く参加していたため大変有意義に情報交換させていただきました。

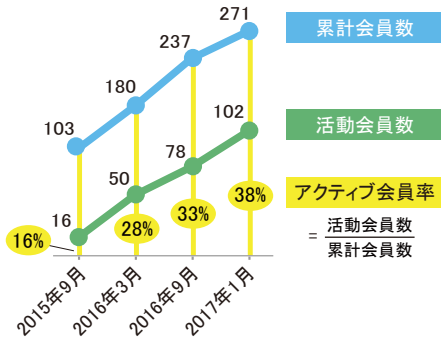
第2回SFTC会員交流会 プレゼンテーションブース タイムテーブル

	①物資支援・スポーツ交流	②アジア地域での活動	③インクルーシブ・障がい者スポーツ	④スポーツコンテンツ	⑤国内機関	SFTC事務局ブース
17:30~17:40	開会・趣旨説明 (SFTコンソーシアム事務局 ディレクター 河原 工)					
セッション① 17:45~18:05	少年軟式野球国際交流協会 少年軟式野球世界大会ドキュメンタリー放映	リーフラス アジア学校建設プロジェクト	日本障害者シンクロナイズドスイミング協会 障がい者シンクロナイズドスイミングの現状と海外交流の様子	ルビナス 元日本代表が現況情報がいち早く提供できる。Facebook×トレーニング情報×国際交流の可視化	国際交流基金 スポーツ分野に対する支援事業について	SFTC個別相談窓口
セッション② 18:10~18:30	ホシノドリームズプロジェクト ホシノドリームズプロジェクト活動概要について	SPW 学生国際研修が行うスポーツ支援	鬼ごっこ協会 日本発の廃止スポーツ「鬼ごっこ」の国際展開について	Non-Violence Project Japan 将来をなす子供と若者に対する、イジメと暴力の予防教育プログラムの普及	防衛省・自衛隊 国際防衛スポーツ大会について	SFTC個別相談窓口
18:35~19:00	プレゼンテーション(スポーツ庁 審議官 木村徹也)					
セッション③ 19:05~19:25	Peace Boat 地球一周の船旅と開港場プロジェクトについて	シャンティ国際ボランティア会 サッカーと難民キャンプの調査報告がきっかけ	嘉納治五郎国際スポーツ研究・交流センター 国際と宇都宮のためのスポーツ(SPR)の普及と人材育成	sports alliance スポーツ現場における「教育」の推進	SFTC事務局 認定事業募集とマッチング事例について	SFTC個別相談窓口
セッション④ 19:30~19:50	グローバルスポーツアライアンス アジアでの運動会の開催とスラムでのスポーツ事情	国際武道大学 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、本学としての今後の取り組み「スポーツからEto-Eto」	ふうせん遊び協会 SDPにおける共生型スポーツの活用及び可能性	フライングディスク協会 国際協力におけるフライングディスクの活用可能性について	日本アンチ・ドーピング機構 アンチ・ドーピングを通じてスポーツの発展を未来へつなぐ教育パッケージのご紹介	SFTC個別相談窓口
19:50~20:00	閉会のご挨拶(外務省 内閣府 人物交流室長 三上陽一)					

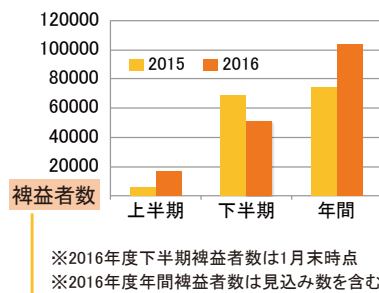
ファクトシート・SFTC会員数と活動実績の推移 会員数増加とアクティブ会員率アップにより、活動実績大幅向上

2016年度は2015年度に比べ活動実績が向上、活動数、裨益者数とも増加している。
その背景には、会員数の増加と、活動に参加するアクティブな会員の割合の増加がある。

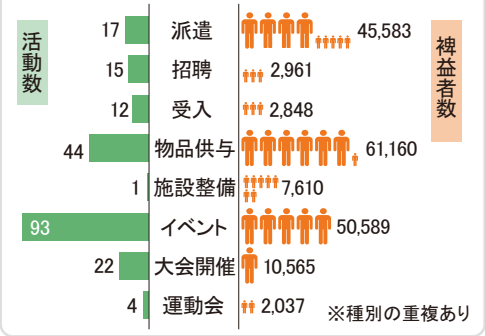
累計会員数と活動数、アクティブ会員率の推移



会員活動による裨益者数



これまでの活動の種別内訳



スポーツを通じた国際貢献・交流を行うためのスキーム紹介

SFTC会員団体の皆様がスポーツを通じた国際貢献・交流活動を行うにあたり申請いただけるスキームを、国際交流基金による助成金を中心にご紹介いたします。

各スキームの詳細については実施団体のホームページ等をご覧ください。

- 国際交流基金 <https://www.jpff.go.jp/j/program/>
- 自治体国際化協会 <http://www.clair.or.jp/j/cooperation/model/>

ASEAN諸国でスポーツを含む日本文化紹介や交流事業を実施する場合は…

スキーム名	アジア・市民交流助成	アジア・文化創造協働助成	アジア・フェロウシップ
実施団体	国際交流基金	国際交流基金	国際交流基金
対象期間	2017年10月1日以降に開始し、2018年3月31日までに完了する事業	2017年10月1日～2018年3月31日に開始する事業	2017年12月1日～2018年5月31日に開始する活動
応募時期	2017年6月1日(必着)	2017年6月1日(必着)	2017年6月1日(必着)
対象事業	ASEAN諸国・日本において実施される市民レベル・地域レベルの交流事業。日本からの参加者があれば可。	ASEAN10か国・日本を主対象とする芸術・文化、スポーツ、知的交流分野の人材育成、ネットワーク形成、基盤強化、共同制作や共同研究などの協働事業及びその成果発信事業。日本の団体又は個人の関与があれば可。	ASEAN10か国・日本を対象とする芸術・文化、スポーツ、知的交流分野における調査・研究・創作・ネットワーク構築などの活動。
申請資格	日本に活動拠点をおく団体。	ASEAN10か国又は日本に活動拠点をおく団体。	ASEAN10か国または日本に居住し、それらの国の国籍・市民権・永住権の保持者。

国際的な若い世代の人材育成を目的に、対話型事業を開催する場合は…

海外に指導者を派遣してスポーツのクリニックなどを実施する場合は…

自治体と連携して国際協力事業を実施する場合は…

スキーム名	地域リーダー・若者交流助成	海外派遣助成	自治体国際協力促進事業
実施団体	国際交流基金	国際交流基金	自治体国際化協会
対象期間	2017年8月1日～2018年3月31日に実施する事業	2017年10月1日～2018年3月31日に開始・完了の事業	2018年4月～2019年3月に実施する事業
応募時期	2017年5月1日	2017年6月1日(必着)	10月上旬頃～11月下旬頃
対象事業	国際的な知的交流・対話の担い手となる人材の育成を目的に海外からの参加者も得て実施する、国際会議やセミナー等の対話型事業(選手育成や競技会は対象外)	スポーツを含む日本文化に関する講演・デモンストレーション・ワークショップ等。 (1)海外から招聘を受け、国内を拠点に活動している日本国内の団体又は個人。 (2)上記団体・個人の海外での文化芸術事業を企画・制作する日本国内の団体又は個人。	姉妹・友好提携関係を活かした協力や、将来的な技術・インフラ移転を見据えた協力など、地方自治体や地域国際化協会などが主体となって取り組む国際協力活動の中から、先駆的な役割を果たす事業。
申請資格	地域社会に根ざした社会的活動を行う日本の非営利団体。NPO、青年や学生の団体も含む。		日本の地方自治体、地域国際化協会、自治体または地域国際化協会と連携するNGO・NPO。

外務省ではSFTTに加入している競技団体を対象に、スポーツ関係者の海外派遣や海外からの招へいを行う『スポーツ外交推進事業』を実施しています。また、内閣官房オリパラ事務局では2020年の大会開催に向け、参加国・地域との相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各

地に広げる取り組みを行っています。SFTC事務局では、スポーツを通じた国際協力・国際交流実施に関するSFTC会員団体からのご相談を随時お受けしております。

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム新規会員 (2016年12月1日～2017年3月16日)

● 地方自治体・関連団体

江別市
大阪市

● NGO/NPO等

魂刀流志伎会
新町スポーツクラブ
スポーツコーチング・イニシアチブ
チャイルド・ファンド・ジャパン
日本盲人会連合
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
ボーイスカウト日本連盟
love.futbol Japan

● スポーツ関連団体

秋田県体育協会
香川県体育協会
長野県体育協会
熊本県体育協会
全日本剣道連盟
日本スカッシュ協会
日本バスケットボール協会
日本バトン協会
北海道体育協会
宮崎県体育協会

● 大学

山梨学院大学

● 民間企業

アサヒ飲料
andro Japan
クーバー・コーチング・ジャパン
コーチョー
スマイリーアース
太陽インダストリーアフリカ
トキオ・ゲッツ
日本武道館
ノアインドアステージ
吉本興業

● その他

SeedA
social football COLO
聴覚障害者体育・スポーツネット
日本国際協力センター
日本貿易振興機構

加盟団体数 **292** 団体 (2017年3月16日現在)

そのほかの会員一覧は、
SPORT FOR TOMORROWホームページ
www.sport4tomorrow.jp/jp/
にてご覧いただけます。

SFTC事務局からのお知らせ

会員専用サイトが変わります！

データベースとして活用してきた会員専用サイトがデザインを一新し、リニューアルいたします。

基本的に使い方は変わりません。会員の皆さんは、アカウントを発行すれば誰でも使用できます。アカウントを発行していない団体の皆様、これを機会にぜひご登録ください。



公式ホームページから入ることができます。

ログインすると、このリニューアルされた画面が開きます。

■ 会員専用サイトとは？

- ・会員間の情報共有のための、会員のみが使えるクローズドなウェブサイト。
- ・会員団体の紹介、会員が行う事業の実績、今後の活動予定等の閲覧が可能。
- ・会員が実施した事業の内容、実施予定の事業内容の閲覧が可能。

■ 会員専用サイトで何ができるの？

- 実施した事業のエリアや期間、内容の検索
専用サイトにはすでに2000件を超えるデータが登録されています。
 - ・いつ、どの団体がどんな事業を行なったか。
 - ・ある地域で事業を行いたい参考になる事例はないか。
 - ・こんな事業を構想しているが、一緒にできるところはないか。
 など、検索機能を活用して情報収集が可能です。

● 認定事業申請・報告がオンラインで！

現在は認定事業申請書をお送りいただいておりますが、以後は当サイトより申請いただくことが可能です。また、事業が完了したら、報告書の送付もサイトから行えます。

■ アカウントが発行されているかわからない！

下記SFTC事務局までお問い合わせください。

事務連絡ご担当者の登録・更新

SFTCご入会時にご登録いただいた「事務連絡ご担当」が変更になった場合、速やかに会員専用サイトにて更新をお願い致します。事務局からの大切なお知らせが遅れたり、届かない場合があります。

会員専用サイトにアクセスができない場合などは、下記のお問い合わせ先までメールにてご連絡ください。SFTC事務局で「事務連絡ご担当者」の変更をさせていただきます。

認定事業終了における報告書のご提出

認定事業の実施が終了した場合、できるだけ早めに下記SFTC事務局(担当：神澤・岸)まで報告書の提出をお願い致します。せっかく申請いただいた事業の裨益者が、カウント出来ないままの状態になっております。「100か国、1000万人」への目標達成のため、ぜひご協力お願い致します。

SPORT FOR TOMORROWホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。 <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。